



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

7月号—No.314

2021.6.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew



ロームシアター京都「ブレイ!シアター in Summer 2019」
京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート「オーケストラと世界一周」
撮影:山地憲太

●目次 / contents

特集「2021年夏のフェスティバル」

フェスティバルカレンダー.....2

夏休み子ども企画カレンダー.....4

地域通信.....7

今月のニュース.....10

地域創造フェスティバル2021報告

財団からのお知らせ.....12

令和4年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)・「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)実施団体募集/「公共ホール邦楽活性化事業」令和4年度実施団体募集・令和3年度全体研修会報告/令和4・5年度「公立美術館活性化事業」募集/令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始

今月のレポート.....16

長野県長野市

長野県立美術館完成記念 東京藝術大学スーパークローン文化財展



特集「2021年夏のフェスティバル」



恒例の「夏のフェスティバル特集号」の季節となりました。話題の大型企画から定番イベントまで、一挙にご紹介します。

●掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

2021年7月～9月 フェスティバル カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
 (📍は会場、📅は問い合わせ先です。
 (👉は地域創造助成事業)

音楽

●川崎市 7月22日～8月9日
 フェスタサマーミュージック
 KAWASAKI 2021

今年で17回目を迎える毎年恒例の真夏の音楽祭。東京交響楽団をはじめとする11団体による公演やクラシックやジャズ、子ども向けのプログラムなど、バラエティ豊かなコンサート内容となっている。また、昨年度好評だった高画質・高音質の映像配信を今年も行い、「ハイブリッドな音楽祭」として開催する。

📍ミュージック川崎シンフォニーホールほか 📍ミュージック川崎シンフォニーホール
 Tel. 044-520-0100 (代)

●長野県松本市 8月21日～9月6日

2021セイジ・オザワ 松本フェスティバル

小澤征爾総監督のもとに、世界中から優れた音楽家たちが結集

し、オーケストラコンサートや室内楽など多彩な演目を披露する。今年は、フェスティバル初参加となる鈴木雅明、シャルル・デュトワが、サイトウ・キネン・オーケストラとタッグを組む。県内の小中学生を招き、生の演奏にふれる機会をつくる教育プログラムにも力を入れている。

📍キッセイ文化ホール、まつもと市民芸術館、松本市音楽文化ホールほか 📍セイジ・オザワ松本フェスティバル実行委員会
 Tel. 0263-39-0001



オーケストラコンサート ©山田毅

●静岡市 8月1日
 グランシップ音楽の広場2021

静岡夏の音楽祭が2年ぶりに開催。会場のオーケストラ奏者の演奏に、一般公募から結成されたリモート合唱団が動画投稿で加わり、会場を音楽で一つに。さらに、野平一郎が作曲したオリジナル楽曲を、林英哲・英哲風雲の会による和太鼓と、オーケストラの演奏で世界初演。音楽の喜びを分かち合う場をつく

り上げる。
 📍静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
 Tel. 054-289-9000

●愛知県長久手市 8月1日
 おんぱく2021～ジャズは祭りだ！
 渋さ知らズオーケストラライブ
 リッドライブ

館内をまるごと音楽のテーマパークに変身させ、1日楽しめる大人気のイベント。今回はコロナ禍での新しい方法として、劇場公演とオンライン生配信のハイブリッドライブ方式で開催する。渋さ知らズオーケストラのパフォーマンスには、文化の家創造スタッフも一部出演して盛り上げるほか、ライブに先駆け7月頃からオンラインで参加できるワークショップも配信する。

📍長久手市文化の家
 Tel. 0561-61-3411



渋さ知らズオーケストラ

●大分県大分市 7月30日、31日
 iichiko グランシアタ・ジュニア
 オーケストラ フェスティバル
 2021

写真
 左上:「Dance Dance Dance@YOKOHAMA 2018」ダンスワークショップ ©Manaho Kaneko
 右上: 豊岡演劇祭2020 フリンジ to R mansion『街角の恋人～湯けむりサーカス編～』撮影協力:日高神鍋観光協会
 左下: 東京都豊島区「こどもアートサーカス2020」(オンラインワークショップ)
 右下: りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館「オーケストラはキミのともだち」(ホールのお仕事体験)

オーケストラ体験やコンサートなど、音楽に浸かる2日間のフェスティバル。初心者から経験者まで、3つのコースに応じた参加型プログラムを展開。初心者は楽器体験、経験者はiichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラの講師による課題曲のレッスンを受講したのち、ホールの舞台上で、初心者、経験者がジュニアオーケストラとの共演を体験する。

☑ iichiko総合文化センター
 ㊦ 大分県芸術文化スポーツ振興財団 Tel. 097-533-4004

● 鹿児島県霧島市ほか 7月15日～8月1日

第42回霧島国際音楽祭

1980年より霧島の地で開催されている歴史ある音楽祭。世界的に活躍する著名な演奏家による演奏会と世界で高く評価される若手音楽家を輩出しているマスタークラスを、約2週間にわたって開催。親子向けのファミリーコンサートやスチューデント・コンサート、YouTubeでのオンラインコンサートも行われる。

☑ 霧島国際音楽ホール、宝山ホールほか ㊦ みやまコンセル Tel. 0995-78-8000



第42回霧島国際音楽祭「ファイナル・コンサート」(指揮:原田慶太郎)

演劇・ダンス

● 札幌市 7月17日～8月21日

札幌演劇シーズン2021-夏

札幌で過去に上演され高い評価を獲得した演劇作品を集め、約1カ月間公演を行う演劇フェスティバル。2012年よりスタートした同企画は夏と冬の年2回開催されている。今回は、のと☆え

れぎ、劇団words of hearts、きまぐれポニーテール、ELEVEN NINES、もえぎ色の5団体に加え、大人から子どもまで楽しめるサテライトプログラムも充実している。

☑ シアター ZOO、生活支援型文化施設コンカリーニョほか
 ㊦ 札幌演劇シーズン実行委員会 Tel. 011-281-6680

● 横浜市 8月28日～10月17日

Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021

3年に一度開催される日本最大級のダンスフェスティバル。プレ期間の7月下旬からは、市内全域18区においてダンサーによる子ども向けワークショップや市民参加プログラム「横浜ダンスパラダイス」を実施。横浜ダンスパラダイスでは、公募によるダンサーやゲストダンサーなど5,000人を超える人々が参加し、さまざまなダンスジャンルでダンスの素晴らしさを伝える。

☑ 横浜市内の公立文化施設・商業施設ほか横浜市内全域
 ㊦ 横浜アーツフェスティバル実行委員会 Tel. 045-663-1365

● 長野県飯田市 8月5日～8日

いいだ人形フェスタ2021

毎年8月に開催される市民と人形劇人が共につくる人形劇の祭典。今年は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、開催規模を縮小。地元劇団を中心に、長野県内のプロ・アマチュア・学生の劇団が参加し、約40会場で公演が行われる。また、「人形劇のまち飯田」の市民がプロの演出家・美術家と共につくり上げた本格的な舞台作品『人魚姫』も上演予定。

☑ 飯田市および近隣町村の約40会場 ㊦ いいだ人形劇フェスタ実行委員会 Tel. 0265-23-3552

t o p i c s

● 迫力のパイプオルガン演奏とプロジェクションマッピングのコラボレーション

札幌コンサートホールKitara「新生!プロジェクションマッピング×オルガン スター・ウォーズ」

札幌コンサートホールKitaraが誇る大ホールのパイプオルガンは、フランスの名門・アルフレッド・ケルン社により2年の歳月をかけて製作されました。その豊富な響きは、深く強く聴く人の心をゆさぶり、Kitaraのシンボルとして市民に愛されています。

「新生!プロジェクション・マッピング×オルガン スター・ウォーズ」は、これまでとは違ったコンサートホールの空間とパイプオルガンの魅力を多くの市民に知ってもらうことを目的に企画されました。プログラムには、『スター・ウォーズ』メドレーや『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のテーマなどお馴染みの名曲ばかり。パイプオルガンの迫力ある演奏とプロジェクションマッピングのスペシャルコラボレーション。1曲ごとに工夫を凝らしたこだわりの演出には、誰もが引き込まれます。

令和元年度の公演で好評を博し、再演となる今回は、さらにパワーアップして開催。音楽は、演奏者のパフォーマンスを最大限に引き出すため新たに編曲を施し、スケールの大きい仕上がり。映像は明るさを増し鮮明で臨場感あふれるものになり、華やかさと迫力を一層引き立たせる演出も見どころです。関連企画として、チケット購入者を対象としたバックステージツアーも同日開催。Kitaraボランティアの案内で、大ホールのオルガンを間近で見学するほか、プロジェクションマッピングの機材も紹介。バックステージを体験することで、コンサートがより楽しめる仕組みになっています。

● 札幌市 8月20日

☑ 札幌コンサートホールKitara

㊦ 札幌市芸術文化財団

Tel. 011-520-2000 <https://www.kitara-sapporo.or.jp/>



前回公演の様子

●兵庫豊岡市ほか 9月9日～20日

豊岡演劇祭2021

2020年に始まった、まちづくりと連携した演劇祭。地域の課題解決を目指し企業も参画。フリンジ型の演劇祭として、豊岡市とその周辺エリアにおいて、野外も含むさまざまな公演場所と劇団をマッチングする。今年は公式プログラムも一部公募を行い、公演・ワークショップ・フィールドワークなど、表現によって地域と人を結びつける取り組みを広く展開する。

☑城崎国際アートセンター、豊岡市民プラザ、出石永楽館、江原河畔劇場ほか

☑豊岡演劇祭実行委員会

(事務局：豊岡市役所大交流課)
Tel. 0796-21-9081

●宮崎県三股町 7月17日、18日
みまた、まちとひとの演劇フェスティバル

“演劇のまち「みまた」”を発信するとともに、演劇を通して幅広い世代が交流する場をつくるフェスティバル。町民と演出家と一緒に、町内に住む人々の「ことば」から「物語」をつくり上げる『わたしの人生の物語、つづく。三股町編』と、「演劇」を手がかりに「まち」と「ひと」の出会いを考え実践している人を招いて取り組みを紹介する「まちとひとの演劇サミットinみまた」(18日のみ)を開催する。

☑☑三股町立文化会館

Tel. 0986-51-3462

美術・映像

●北海道東川町 7月31日～9月1日

第37回東川町国際写真フェスティバル

写真文化による町づくりを展開する東川町で毎夏開催している、「写す、残す、伝える」心を世

界の人々と共有する恒例のフェスティバル。第37回写真の町東川賞授賞式や全国の高校生が集う「写真甲子園」などが企画されている。高校生国際交流写真フェスティバルなど一部の企画は、コロナにより道外からの参加者招聘が困難なためオンライン主体で開催される。

☑東川町内各所

☑東川町写真の町実行委員会

Tel. 0166-82-2111



前回の「写真の町東川賞」授賞式の様子

●大分県由布市 8月26日～29日

第46回湯布院映画祭

1976年に始まり、現存する地域映画祭としては最も古くから続いている映画祭。20代から60代までの幅広い年齢層で構成されたボランティアによる実行委員会が運営しており、前夜祭や特集企画、新作映画上映、シンポジウムなどが行われ、日本映画のつくり手とファンが出会う場となっている。今年は原田美枝子特集。原田や『愛を乞うひと』の平山秀幸監督ら多彩なゲストを招く。また新型コロナ感染対策のため、定員を半分として実施する。

☑JR九州由布院駅 駅前広場、由布市湯布院町 ゆふいんラックホール

☑湯布院映画祭大分事務局

Tel. 097-532-2426

ホール・美術館 夏休み子ども企画 カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
☑は会場、☑は問い合わせ先です。
(☑は地域創造助成事業)

音楽・演劇・ダンス

●千葉県市川市 7月9日

音楽大好きコンサート in 行徳

財団新人演奏家コンクール出身の若手演奏家たちによる、子どもからシニアまで3世代が楽しめるクラシックコンサート。ソプラノ、マリimba、ピアノといった他所では見られないアンサンブルで、クラシックやポップスの名曲たちから即興演奏まで飛び出す。

☑行徳文化ホールI&I

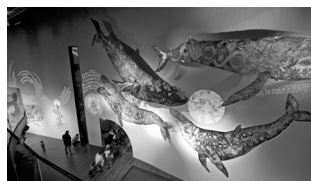
☑市川市文化振興財団

Tel. 047-379-5111

●横浜市 7月12日～19日

KAATキッズ・プログラム2021 『ククノチ テクテク マナツノ ポウケン』

開館時より開催している「KAATキッズ・プログラム」。10年目となる今年は、コンテンポラリーダンスの新たな表現に挑戦し続ける振付家・北村明子演出による「夏休み」をテーマにした新作ダンス公演。さらに、舞台美術には、自然と生き物をモチーフに身体や生命について訴えかける作品を数多く手がけてきた若手



大小島真木(L'oeil de la Baleine/鯨の目)
(Aquarium of Paris Cineaquarium, Paris,
France Year 2019)

Photo by Serge Koutchinsky

の現代美術家・大小島真木を迎える。

☑☑KAAT神奈川芸術劇場

Tel. 045-633-6500

●新潟市 7月31日

オーケストラはキミのともだち

子どもたちに音楽の楽しさと芸術の素晴らしさを伝え、豊かな感性や創造力を育てていくことを目的としたコンサート。耳なじみのある演目と東京交響楽団による良質なオーケストラ音楽を最高の環境で、親子で一緒に楽しむことができる。関連イベントとして、お仕事体験や楽器展示、クロスワードクイズなども実施する。

☑☑りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

Tel. 025-224-7000

●富山県富山市 7月17日

親子で聴く小学生のためのホールde音楽の時間『ピアノのひみつ ラッパのひみつ』

ピアノと金管五重奏による迫力の『キエフの大門』などの楽曲を、家族と一緒に楽しめる、小学生のための演奏会。また、プロの演奏家がワークショップの手法を用いて「ピアノのひみつ」「ラッパのひみつ」をわかりやすく紹介。大きなホールを会場に、小学校の授業では体験できない「音楽の時間」を提供する。

☑☑富山県民会館

Tel. 076-432-3115

●岐阜県岐阜市 8月3日

夏休み! 富田一樹 オルガンコンサート+オルガン探検

ホールが誇るパイプオルガンの魅力を発信する事業。オルガニスト・富田一樹によるミニコンサートは、「トッカータとフーガ ニ短調」をはじめ、パイプオルガンの響きや迫力を楽しめるプログラム。毎年、子どもに人気の高

い「オルガン探検」では、実際にパイプオルガンの構造を見学し、音の出る仕組みを楽しく学ぶことで、楽器を身近に感じることができる。

📍 サラマンカホール
Tel. 058-277-1113

●愛知県豊橋市 9月5日
ワークショップ縁日2021

劇場のいろいろな場所を巡って楽しむ子ども向けのイベント。頭や身体を使ったゲーム形式のワークショップ「げきじょうであそぼう」や、子どもたちがつくったオリジナルのお店を展示する「お店をつくらう!小さなまちづくりプロジェクト」を開催。また、子どもと大人が一緒に楽しめる無料コンサートも同時開催する。

📍 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT Tel. 0532-39-8810

●名古屋市 7月24日～8月26日
愛知県芸術劇場
ファミリー・プログラム2021

夏休みに“劇場の楽しさ”を家族で体験してもらうフェスティバル。家族で楽しめる催しが充実しており、劇場初心者でも安心して参加できる。芸術監督の勅使川原三郎と東海園のバレエダンサーが初めて取り組む愛知県芸術劇場発のダンス公演『風の又三郎』をはじめ、家族向けの公演やバックステージツアー、ワークショップも多数開催。

📍 愛知県芸術劇場
Tel. 052-971-5609

●愛知県幸田町 7月3日
親子で楽しむ音楽会2021

0歳から楽しめる70分のコンサート。演奏曲は『動物の謝肉祭より』『星に願いを』『トルコ行進曲』や、世界中で愛されているエリック・カールの絵本『はらぺこあおむし』を音楽に乗せて朗読するなど0歳から大人まで楽しめる

内容を予定している。同日に「七夕コンサート2021」も開催。

📍 幸田町民会館
Tel. 0564-63-1111

●京都市 8月14日、15日

夏休みは、思いっきり劇場で遊ぼう! プレイ!シアター in Summer 2021

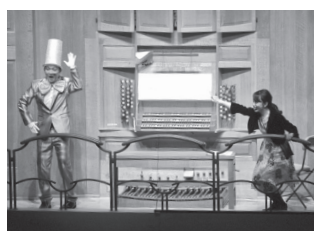
気軽に遊べる劇場として、子どもから大人まで劇場を満喫できる2日間。「京都市交響楽団0歳からの夏休みコンサート」は、京都市動物園との連携企画で動物の映像を取り入れる演出も。ほかにも、小学校低学年を対象とした寄席企画や劇場技術を体験できるワークショップ、絵本の読み聞かせなど盛りだくさんの内容。

📍 ロームシアター京都
Tel. 075-771-6051

●兵庫県姫路市 7月11日

0歳からの!オルガンレクチャー & ミニコンサート「オルガンに会いに行こう」～パイプくんとゆかいな動物たち～

姫路市出身の長田真実(パルナソスホールオルガニスト)が贈る、子ども向けオルガンイベント。“楽器の女王”と呼ばれるパイプオルガンについて、音が鳴る仕組みを学んだり、いろんな音色を聴き比べたり、お話と演奏を交えながら紹介する。本編の中では、手拍子や打楽器でパイプオルガンと共演できるコーナーもあり、小さな子どもと一緒に家族で気軽に楽しめる。同日、オルガンワークショップ「紙工作



昨年の様子

t o p i c s

●藤田貴大による子ども向け作品を再演
彩の国さいたま芸術劇場

『めにみえない みみにしたい』『かがみ まど とびら』

藤田貴大(マームとジブシー主宰)が生み出した、子どもから大人まで一緒に楽しめる演劇作品『めにみえない みみにしたい』『かがみ まど とびら』は、子どもだけでなく、大人も魅了する作品として、初演時から高い評価を得ています。今回は、この2作品の再演を、彩の国さいたま芸術劇場を皮切りに、全国13会場を回るツアー形式で行います。

彩の国さいたま芸術劇場では、2018年に藤田と『めにみえない みみにしたい』を企画制作し、その反響を受けて、第2弾となる『かがみ まど とびら』の制作および、今回の2作品ツアー公演に至りました。

大きな布を森に見立てたり、しゃぼん玉等を使った視覚効果等、演劇の多様な手法を用いながら、少女の成長や自立、戦争というモチーフにも挑んだ『めにみえない みみにしたい』は、藤田が手がけた初めての子ども向け作品で、2019年度に地域創造の「公共ホール演劇ネットワーク事業」として、全国9地域で公演を行っています。『かがみ まど とびら』では、大切なぬいぐるみが捨てられるのを阻止するため、かがみ、まど、とびらの3人の女の子が、それぞれの家を巡りながら一夜の冒険を繰り広げます。前回公演と同様、影絵やゲーム等の遊びの要素を織り交ぜて、子どもたちの観劇への興味を高めつつ、「鏡」「窓」「扉」という身近なモチーフを用いて、自他の境界線とは何かを考えさせられるストーリーとなっています。

プロセニウム形式ではなく、舞台と客席が一体となった空間で、五感を活用して楽しむことのできる2つの作品から、各地の子どもたちが何を思い、何を感じるのか。7月4日には藤田がワークショップ参加者へインタビューをしながら、それぞれの風景をみんなで再現したり、童話を題材に小さな場面を参加者と創作する「地図のワークショップ+a」も開催されます。

●さいたま市 7月17日、18日
📍 彩の国さいたま芸術劇場
Tel. 048-858-5500 <https://www.saf.or.jp/arthal/>



『めにみえない みみにしたい』再演(2019年) 撮影:細野晋司

topics

●長野県下最大規模の舞台芸術の祭典 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル 「キッズ・サーキット in 佐久2021」

国内外の優れたプロフェッショナルな舞台芸術団体を佐久市内の複数の文化施設に招聘した児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル「キッズ・サーキット in 佐久」。この事業は、佐久市文化振興基金の運用益を活用して2016年から実施され、今年で5回目の開催を迎えます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催が見送られ、2年ぶりの開催となる今回は、大人も子どもも楽しめる17団体による演劇・音楽・人形劇・ミュージカルなど24公演が3日間にわたって開催されます。市内6施設で同時に開催することから、一つの身近な施設の鑑賞だけに留まらず、普段訪れない施設へも足を運んでもらうよい機会にもなっています。また、キッズ・サーキット前日の8月5日には、約30人の地域の子どもたちと大人のアーティストが一緒につくり上げる佐久版ミュージカル『不思議の国のアリス』が上演されます(入場無料)。

「キッズ・サーキットでは、“観て・聴いて・体験して発表する”をテーマに掲げており、鑑賞とは別に2018年から“体験”と“発表”の視点で、『子ども創作活動プロジェクト』と称して、子どもたちが能動的に表現体験のできる場を用意し、この地域での文化・芸術の高まりに大きく寄与しているところです。佐久地域の夏の風物詩として多くのご家族にご来場いただき、夏の思い出作りに役立てていただけることを願っています」とエグゼクティブ・プロデューサーの柳田清二佐久市長。親子で最高の舞台芸術にめぐりあえる3日間です。

●長野県佐久市 8月6日～8日

📍 佐久市コスモホール、佐久平交流センターほか
📍 (キッズ・サーキット in 佐久) 実行委員会事務局
Tel. 0267-82-3962 <https://kc-saku.com>



「キッズ・サーキット in 佐久2019」から(劇団あとむ「あとむの童話の森にて」)

でパイプを作ろう!」も開催。

📍 パルナスホール

📍 姫路市文化国際交流財団 パルナスホール

Tel. 079-297-1141

●兵庫県伊丹市 8月7日、8日

「みんなの劇場」こどもプログラム『かえるの? 王子さま』

普段劇場に来る機会が少ない地域の子どもたちに良質な舞台作品を提供し、豊かな心を育むことを目的に実施している舞台芸術鑑賞プログラム。今年度は、令和元年度に創作・上演し好評を博したマイム俳優・いいむろなおきによるノンバーバル作品を再演。言葉でのコミュニケーションが未熟な3歳から6歳の子どもを主な対象とし、パントマイムの技法を使いながら視覚と想像でお話の世界に誘う。

📍 アイホール(伊丹市立演劇ホール) 📍 いたみ文化・スポーツ財団 Tel. 072-782-2000



「かえるの? 王子さま」 撮影:中才知弥

●広島県東広島市 7月31日、8月1日

夏休みこどもシリーズ

子どものワクワクを引き出すアーティストとして人気のTOPAが進行する「オトノバ!〜親子のための音とからだの遊びの世界〜」のほか、「探検!発見!くららバックステージツアー」や、「0歳から楽しめる!夏のファミリー・コンサート♪」など、2日間で3種類の子ども向けイベントを実施する。

📍 東広島芸術文化ホールくらら Tel. 082-426-5900

●香川県高松市 7月24日

瀬戸フィル ティータイムコンサート in サマー!

毎年好評のティータイムコンサートの夏バージョン第2弾。普段とは雰囲気を変え、テーブル席に変身したホールで、童謡から本格的なクラシックまでの多彩なプログラムを、気軽にゆったりと満喫できる。出演者・来場者が浴衣・甚平などの夏の装いで参加することで、一体となって夏と音楽を楽しむ空間が演出される。

📍 サポートホール高松

Tel. 087-825-5010

●福岡県宗像市 8月21日

九管ポップス ファミリーコンサート スペシャル

九州管楽合奏団が贈る大人気の夏休み特別企画。歌のおにいさん(鈴木翼)、歌のおねえさん(さえきまゆこ)と指揮・音楽監督オリタノポッタの新たなコラボが生み出すスペシャルなステージをお届けする。わくわくする演奏に合わせて、からだを使った楽しい遊び歌を親子で体験できる幼児・小学生低学年向けのコンサート。

📍 宗像ユリックス

📍 宗像ユリックス文化事業部

Tel. 0940-37-1483



2020年公演の様子

●宮崎県宮崎市 7月21日

はじめてのクラシック♪ #10 ~ソプラノ~

2019年4月からスタートした0歳から大人までが一緒にクラシック音楽を楽しめるコンサートシリーズの10回目。当劇場の音楽アウトリーチ事業でさまざまな人、

場所に音楽を届けてきた田島千愛(ソプラノ)と片野郁子(ピアノ)が出演する。コロナ対策として、家族ごとに縦横約120cmのマットを1エリアとし、各エリアで1メートルの間隔を取って鑑賞する。**📍**メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
Tel. 0985-28-3208



前回の「はじめてのクラシック」の様子

美術

●茨城県笠間市 7月17日～9月26日

土イジリ

「土イジリ」をキーワードに、「どろどろ」など、さまざまに変化する土の状態に着目し、陶芸作品とともに映像資料などを活用して、作家それぞれが土と向き合う様子を合わせて紹介する。また、実際の「土イジリ」が体験できるよう小学生から大学生を対象に、陶芸家の齋藤敏寿筑波大学芸術系准教授の作品を参加者が協力して組み上げるワークショップなどを実施。

📍茨城県陶芸美術館

Tel. 0296-70-0011



齋藤敏寿《archetype91021-93100》(2019年/個人蔵)

●愛知県高浜市 7月3日～9月26日

ボン・ヴォヤージュ! —鉄・布・ダンボール アートの森へ旅によう—

鑑賞者を旅人、会場を森に見立て、アートの森を旅することで観る・触れる・感じる喜びを親子で楽しむ夏休み企画。鉄や布、ダンボールなど身近な素材で制作を行う藤沢レオ、森迫暁夫、吉田傑による個性的な作品が集結する。会期中には「鉄たたくます。」(8月22日)など素材を生かした多様なワークショップを実施。

📍高浜市やきものの里かわら美術館 Tel. 0566-52-3366



吉田傑《GARAPAGOS GIANT TORTOISE》(2016年)

総合

●東京都豊島区 7月17日～8月15日

こどもアートサーカス2021

毎年夏休みに開催される人気企画。昨年はオンライン開催だったが、今年はオンラインとリアルを組み合わせて実施する。オンラインではコマ撮りアニメーションやプログラミングのワークショップが開催され、リアルでは区民センターを会場に、サーカス小屋の装飾をつくったり、音楽と遊ぶワークショップを開催。最終日にはホールで中川賢一らによる「あやしいサーカス団」のコンサートが開かれ、各ワークショップでつくった作品も登場する。

📍オンライン、としま区民センター

Tel. 03-3590-7118

地域通信

北海道・東北

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 青森県十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 鷲田・金澤

<https://towadaartcenter.com/>

Arts Towada 十周年記念 インター + プレイ展 第1期

十和田市の官庁街通り全体を一つの美術館に見立て、多様な現代アート作品を展開して魅力ある景観をつくり出す取り組み「Arts Towada」の10周年を記念した展覧会の第1弾。Arts Towadaの精神を象徴するインタープレイ(相互作用)をテーマに、彫刻・映像・音楽などジャンルを横断する5組の作家を招聘。十和田の自然や環境を取り入れつつ、時には鑑賞者とも相互作用を引き起こす作品が展開される。9月18日からは第2期の展示を開催。

[日程] 2020年7月23日～2021年8月29日

[会場] 十和田市現代美術館



目[mé]《space》「インター + プレイ」展展示風景(2020年/十和田市現代美術館) 撮影: 小山田邦哉

関東

●埼玉県和光市

和光市文化振興公社

〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5

Tel. 048-468-7774 塚田美穂

<http://www.sunazalea.or.jp/>

誰でもコンサート2021 ～Over The Border～

共生社会の実現に向けた文化芸術活動推進プロジェクト。さまざまな立場の人々が美しい音

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。

Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183

letter@jafra.or.jp

地域創造情報担当 藤原・梅村

●2021年9月号情報締切

7月26日(月)

●2021年9月号掲載対象情報

2021年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

楽を聴く時間を共有するだけでなく、障がい児による合唱団の結成および出演機会を提供する本事業をきっかけにコミュニティ形成や社会への参加を促進していくことを目的とする。なお、公演名にある「Over The Border」は、本来は“国境を越えて”の意味だが、障がい等の垣根を越えての意味で事業名としている。

[日程] 6月26日

[会場] 和光市民文化センターサンアゼリア大ホール



昨年の誰でもコンサート(白子ほのぼの合唱団)

●埼玉県鴻巣市

鴻巣市施設管理公社

〒365-0032 鴻巣市中央29-1

Tel. 048-540-0540 神澤健吾

<https://clea-konosu.com/>

ヴァルトゥオーゾ音楽の森・夏

2000年の鴻巣市文化センター(クレアこうのす)オープンと同時に、当ホールをフランチャイズホールとして生まれたプロ弦楽合奏団「アンサンブル鴻巣ヴァルトゥオーゾ」のメンバーによるトーク&室内楽コンサート。今回はヴァイオリニスト・三浦道子ほかに

[日程] 7月25日

[会場] 鴻巣市文化センター(クレアこうのす)小ホール

●東京都町田市

町田市文化・国際交流財団

〒195-0053 町田市能ヶ谷

1-2-1

Tel. 042-737-0252 春名祐子

<https://www.m-shimin-hall.jp/tsuru-kawa/>

若き演奏家による「水曜午後の音楽会」第81回 太田咲耶ハープリサイタル

実力のある若手演奏家に演奏の機会と発表の場を提供し、若手演奏家の育成を行うとともに、市内外の方に安価で質の高い演奏会を気軽に聴いていただく目的で企画した事業。これまでさまざまな編成の若手演奏家が出演してきたが、今回はハープリサイタルをお届けする。

[日程] 7月21日

[会場] 和光大学ポプリホール 鶴川

●東京都小金井市

こがねいして共同事業体

〒184-0004 小金井市本町

6-14-45

Tel. 042-380-8099 菅原英子

<https://koganei-civic-center.jp/>

伝統芸能NEO

～躍動する日本舞踊～

流派を越えて日本舞踊の新たな創造と普及を目指す、男性だけの舞踊家集団・弧の会による特別公演。紋付・袴のみの素踊り・群舞をコンセプトに、スピード感と迫りに満ちたオリジナル作品を展開。弧の会メンバーによる日本舞踊レクチャーも行われる。6月には、同ホールで小山豊 Quartet band (津軽三味線・尺八・ピアノ・ドラムス) 公演や、日本舞踊と和楽器の関連講座も実施。伝統芸能への先入観を覆す、誰でも楽しめる企画が続く。

[日程] 7月11日

[会場] 小金井 宮地楽器ホール



弧の会

●横浜市

神奈川県立青少年センター

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

Tel. 045-263-4475 藤岡審也

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/index.html>

寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V ~Teens Revenge Edit.~』

青少年センターの事業として、2017年から小田原のフリースクール「寄宿生活塾 はじめ塾」とワークショップを継続してきた東京デスロックの多田淳之介が、3年間にわたる取り組みの成果として彼らと共に演劇作品を創作。昨年3月に最終リハールまで進みながら公演中止となった幻の作品を、子どもたち23人と共にリクリエーションして上演する。

[日程] 7月17日、18日

[会場] 神奈川県立青少年センター



『Anti Human Education II ~TEENS Edit.~』公演中止のため、関係者に向けた成果発表の様子(2020年2月)

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 長岡市千秋3-

1356-6

Tel. 0258-29-7715 佐藤貴志

<http://www.nagaoka-caf.or.jp/>

長岡リリックホール開館25周年記念 リリック・ジュニア・ミュージカル公演『森が海をつくる』

白い犬のジェイクが自然の声を聞いて生命や自然の大切さについて考える、葉祥明の絵本『森が海をつくる』を原作に、

長岡のオリジナルミュージカルとして公演を行う。出演するリリック・ジュニア・ミュージカルは、小学3年生から高校生までの長岡市芸術文化振興財団主催の劇団。平成16年に市民提案事業として始まり、プロのミュージカル俳優と一緒に歌やダンス、演技の楽しさを学び、披露できる場となっている。

[日程] 7月18日

[会場] 長岡リリックホール・シアター

●福井県福井市

福井県文化振興事業団

〒918-8152 福井市今市町

40-1-1

Tel. 0776-38-8288 三田村まどか

<https://www.hhf.jp/>

越のルビープロジェクト ピアノ・トリオの愉しみ～彩色の響き～

福井ゆかりの「越のルビーアーティスト」による自主企画シリーズ。今回は、福井県出身のヴァイオリニスト松谷由美が率いるTrio 遊羽穂(ゆうほ)が、3人の作曲家(ラヴェル、マルティヌー、ピアソラ)にスポットを当てた渾身のプログラムをお届けする。また、6月29日にはメンバーによる室内楽クリニックも予定。

[日程] 7月1日

[会場] ハーモニーホールふくい

●長野県上田市

上田市交流文化芸術センター

〒386-0025 上田市天神3-

15-15

Tel. 0268-27-2000 横尾慎二

<https://www.santomyuze.com/>

ボーイだったミーツガールだったアワー リーディング公演『おとこたち』『きよこさん』

オーディションにより選出された17人の市民と俳優たちでお届けするリーディング形式での演劇公演。作家・演出家、俳優

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

であり、劇団ハイバイ主宰の岩井秀人を監修に迎え、岩井作『おとこたち』、ハイバイの俳優・川面千晶作『きよこさん』の2作品を上演する。

[日程]7月3日、4日

[会場]サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

近畿

●三重県津市

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel. 059-227-2100 鈴村麻里子

<https://www.bunka.pref.mie.jp/art-museum/>

美術にアクセス!—多感覚鑑賞のすすめ

収蔵作品とともに、絵画の触図や音声ガイド、絵の具の質感を再現したサンプル等の鑑賞を支援する教材を展示し、視覚のみではなく触覚や聴覚を活用した鑑賞や、想像力でさまざまな感覚を結びつける鑑賞を提案する。三重県立美術館では2018年に活動指針のひとつとして「誰もが利用しやすい環境」を整えることを定めた。また県内の特別支援学校等との連携事業も進めており、本展はこのような取り組みから着想されたもの。

[日程]6月5日~8月1日

[会場]三重県立美術館



過去の鑑賞支援ツール展示風景

●滋賀県大津市

滋賀県立美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大

萱町1740-1

Tel. 077-543-2111 荒井保洋

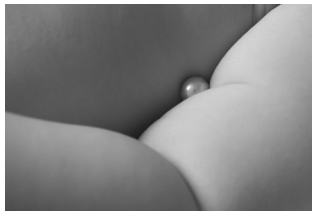
<https://www.shigamuseum.jp/>

滋賀県立美術館リニューアルオープン記念展「Soft Territory かわりのあわり」

コロナ禍で大きく変化しつつある人と人との関わりをテーマに、滋賀にゆかりのある12名の若手作家による、新作インスタレーションのみで構成する展覧会。滋賀県立美術館は4年間にわたる休館期間中に、滋賀にゆかりのある作家と共に、地域の人々との交流・協働を目指す「アーツポットプロジェクト」を展開してきた。本展はその活動の集大成であるとともに、今後も人々と関わろうとする意思表示でもある。

[日程]6月27日~8月22日

[会場]滋賀県立美術館



河野愛《こともの foreign object》(2021年)

●奈良県奈良市

奈良市総合財団

〒630-8337 奈良市脇戸町3

Tel. 0742-24-4111 松村・柳本

<http://www3.kcn.ne.jp/~shodou/>

華邨の心と書の世界

かな書の第一人者であった杉岡華邨(1913~2012)は、哲学者・久松真一の下で思想的指導を受け、さらに柳宗悦の思想や良寛の精神性などに影響を受けて自らの人間性を培いながら研鑽を続け、独自のかな書の世界を生み出した。本展では、華邨の思想性や精神性に注目し、収蔵品の中からその人間性を感じさせる作品や、彼が目指した「心の書」の世界を物語る作品を紹介する。

[日程]6月1日~9月26日

[会場]奈良市杉岡華邨書道美術館

中国・四国

●島根県

しまね文化振興財団

〒690-0887 松江市殿町158

Tel. 0852-22-5502 門脇永

<https://www.cul-shimane.jp/hall/>

インクルーシブシアター・プロジェクト 映像×ダンス公演『或る椅子の、つぶやき』

2016年に目の不自由な人とダンサー・振付家の田畑真希が会って始まったダンスプロジェクト。2019年からは「島根県民会館インクルーシブシアター・プロジェクト」として発展し、昨年度はダンス映像作品をYouTubeで公開。今回は映像作品と、障がいの有無にかかわらず生身のダンサーやミュージシャンが交わり、新たな表現に挑戦する。また鑑賞サポートとして音声ガイド解説などもあり。

[日程]7月3日

[会場]島根県民会館



ダンス映像作品短編集「或る椅子の、つぶやき」より

●山口県長門市

長門市文化振興財団

〒759-4106 長門市仙崎

10818-1

Tel. 0837-26-6001 上田富夫

<https://www.renaissance-nagato.jp/>

ルネッサながと開館20周年記念公演「つなぐ」

開館以来、施設の運営に多大な功績のある人間国宝の野村万作、吉田蓑助、坂田藤十郎の3人を特別表彰し、狂言・文楽の特別公演を行う。狂言は、野村万作師自ら狂言の語り芸の最高峰『奈須と市語』を、文楽は、吉田蓑助師の弟子・桐竹勘十郎師が地方では観ること

のできない人形の宙乗りが見所の『義経千本桜~河連法眼館の段』を上演する。

[日程]7月3日

[会場]ルネッサながと



伝統的な芝居小屋をイメージしたルネッサながとの劇場

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館

〒770-8070 徳島市八万町向

寺山

文化の森総合公園内

Tel. 088-668-1088 友井伸一

<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

自転車のある情景

近年、スポーツや移動手段のみならず、環境や健康、ファッションなどの観点からも魅力が再発見されている自転車に関する展覧会。自転車がモチーフになった絵画やポスターなどの美術作品と、実際の自転車を展示し、自転車が登場する多彩な美術を味わえる。「美術」を幅広い視点から見直すとともに、自転車を通じて美術とスポーツの豊かなあり方を考える。

[日程]7月17日~9月5日

[会場]徳島県立近代美術館



ジャン・メッツァンジェ《自転車乗り》(1911-12年/油彩、砂、コラーージュ、キャンバス/55.0×46.0cm/徳島県立近代美術館蔵)

感染症対策を行い、2年ぶりに開催

地域創造フェスティバル2021 報告

2021年5月25日、26日

写真左上: おんかつ支援プレゼンテーション
(松本蘭さん)

右上: おんかつセミナー(オンライン)

左下: 地域創造事業 ワークショップ体験&
レクチャー(吉澤延隆さん&川村葵山さん)

右下: 地域創造事業 ワークショップ体験&
レクチャー(有門正太郎さん)

●地域創造フェスティバル

地域創造の事業紹介を目的に年1回開催しているフェスティバル。音楽、ダンスのアーティストによる多彩な実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を開催。アーティスト、全国のホール関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(今年度はコロナ禍によりプログラムを変更)。



上: おんかつ支援プレゼンテーション(中野翔太さん)/下: 地域創造事業 ワークショップ体験
&レクチャー(セレングラフィカ)



多くのアーティストと公立ホールの交流の場となっている地域創造フェスティバル。昨年度は新型コロナウイルス感染症により中止を余儀なくされましたが、今年度は感染症対策を行い、規模を縮小して、5月25日、26日に東京芸術劇場を会場に実施しました。全国からの参加が困難であることを踏まえ、シンポジウム、担当課長会議は開催を見送り。また、公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)について学ぶ「おんかつセミナー」はオンラインとし、例年行っている「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」の登録アーティスト・プレゼンテーションは10月27日に、としま区民センターで分散開催することとしました。PCR検査など感染症対策にご協力をいただくとともに、開催にご尽力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

●オンラインでグループ・ディスカッション

おんかつセミナーは、おんかつを実施してきた、あるいはこれから検討したいという地方公共団体やホール担当者とおんかつコーディネーターをオンラインで繋いで実施しました。全体説明の後、「アウトリーチ事業の継続」「アウトリーチの活用」「広報」「地域間連携」「コンサートのコンセプト」の5つのテーマに分かれて

グループ・ディスカッション。各グループにコーディネーターが参加し、議論をファシリテートしました。

日本クラシック音楽事業協会事務局長の丹羽徹さんがファシリテーターを務めたグループでは、「地域間連携」をテーマに2時間にわたり意見交換。まず、丹羽さんが「音楽事業を地域のためになるようにするには継続して取り組むことが重要。そのための地域間連携について考えたい」と問題提起。参加した掛川市文化財団の宇野芽久美さんは、「子どもたちが気軽に音楽にふれられるように、音楽活動等支援事業として地元アーティストによるアウトリーチを実施している。合併した旧町間の一体感をどう醸成するかという課題があり、このグループに参加した」、また、三芳町文化会館の三田村宗剛さんは、「都心から近く、近隣の市にも文化ホールがある。自治体の壁を越えて沿線のホール同士で連携したいが、担当者の異動などもあり、なかなか継続できない」など現状を共有。丹羽さんは、「地域間連携といっても課題や取り組みは全く異なる。連携するためには相手が何を考えているかなどのリサーチが重要で、それを踏まえて提案するプロデュース力が求められる」と議論を促していました。

オンラインミーティングでは、同じ施設から複数の職員が参加できるメリットもあり、職員同士がお互いの認識を知り合う機会にもなっていました。

●地域創造の事業を体験ワークショップで紹介

これは、公共ホール邦楽活性化事業、リージョナルシアター事業、公共ホール現代ダンス活性化事業で行われているアウトリーチなどの雰囲気を知ってもらえるもので、参加者全員が3つのワークショップを体験しました。

邦楽活性化事業は、令和元年度に市町村から応募できるプログラムとしてリニューアル。今回は、吉澤延隆さん(箏)と川村葵山さん(尺八)が高松市で実施したプログラムの一部を行いました。箏の弦を叩くなど特徴的な奏法を使う現代曲や尺八の古典曲を披露したほか、参加者にボディパーカッションで『春の海』に参加してもらって体験を通じ、邦楽もリズムに乗って聴くことができるということをお伝えしました。

リージョナルシアター事業は、演劇の手法を使い、地域の課題などにアプローチするワークショップを展開しています。今回は事業アドバイザーの岩崎正裕さん(劇作家・演出家)と、派遣アーティストの有門正太郎さん(演出家・俳優)がファシリテートしました。「演劇の本質的な要素は“遊び”。ワークショップでは遊びを通じて参加者の間で分かち合いが生まれるようなコミュニケーションを探る」と岩崎さん。有門さんは想像力を使って部屋の中からいろいろな「形」を探し、さまざまなものに見立てる遊びを提案。参加者は単純なルールからどんどんイメージが広がり、それをみんなで分かち合うことの楽しさを実感していました。

ダン活事業は3カ年かけて現代ダンスのさまざまな魅力を感じることでできるプログラムで、今回はセレノグラフィカ(隅地菜歩、阿比留修一)のワークショップを体験。「身体は誰もが持っていて触れるもの。遊びながら自分の身体に気づき、自分を大切にすること、自分と同じように他人を大切にすることを伝えたい」

という隅地さん。関西人ならではの軽妙なトークを交え、短いワークを重ねて、1曲を踊り切る体験をしました。阿比留さんは、「朝起きるところからすでに動いている。身体を動かさずに生きている人はいない。その動くことがダンスであり、生きていることそのものがダンス。みなさんの人生の中にダンスを感じてもらえたら嬉しい」と締め括っていました。

●おんかつ支援アーティスト37組が参加

今回は、演奏エリアをアクリル板で囲い、客席を離し、演奏家も参加者もマスクを着用し、インターバルの度にアルコール消毒を行い、演奏しながら登場したり、楽器体験を行うといった交流型の取り組みは行わないなど、異例の対応となりました。

中川賢一さんは、コロナ禍の催しで使うようになったというヘッドセットと携帯用スピーカーを持参。名作絵本『はらぺこあおむし』を投影しながら、演奏をバックに鶴木絵里さんが朗読するという贅沢なアウトリーチプログラムを披露。今年、磯絵里子さんとのいとこデュオ「デュオ・プリマ」が20周年を迎えるという神谷未穂さん。イメージが膨らむという武満徹の『海へ』をアウトリーチの定番曲にしている高知出身のフレンドリーな二人組、泉真由さんと松田弦さん。田村緑さんを加えた6手30指での演奏にチャレンジしたデュエットウカナエ&ゆかり。自由に感じることを体験してほしいと暗闇で能をモチーフにした「舞」を演奏した田中拓也さん。2歳になる息子のぬいぐるみをたくさん持参してそのキャラクターに合わせて弾き比べをした松本蘭さん。圧倒的な歌唱力で感動の『翼をください』を熱唱した村上敏明さん。民族楽器とマッチするというバルトークを瀧村依里さんとコラボレーションしたDual KOTO×KOTO。いつものパレードを封印し、賑やかに明るく全身を使って今だから尚さら心に滲みる音楽の楽しさを伝えてくれたBLACK BOTTOM BRAS BANDなどなど。久々に仲間と演奏できる喜びに溢れたプレゼンテーションが続きました。

●地域創造フェスティバル2021 プログラム概要

【1日目(5月25日)】

◎おんかつセミナー(オンライン)
[ファシリテーター]おんかつコーディネーター

[アウトリーチ事業の継続](赤木舞)、
[アウトリーチの活用](山本若子)、「広報」(小澤櫻作)、「地域間連携」(丹羽徹)、
[コンサートのコンセプト](仕田佳経)

◎おんかつ支援プレゼンテーション(東京芸術劇場リハーサルルーム)

[ピアノ]中川賢一
[弦楽器]神谷未穂・松本蘭(ヴァイオリン)、加藤文枝(チェロ)

[管楽器]森岡有裕子(フルート)、田中拓也(サクソフォン)、喜名雅(テューバ)

[声楽]ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)
[打楽器]塚越慎子(マリンバ)、野尻小矢佳(パーカッション&ボイス)

[その他]松尾俊介(クラシック・ギター)、江崎浩司(リコーダー)、福島青衣子(ハーブ)、山本奈央(オカリナ)

[アンサンブル]デュエットウカナエ&ゆかり(ピアノデュオ)、泉真由×松田弦(フルート&クラシックギター)、アーバンサクソフォンカルテット(サクソフォン四重奏)、Buzz Five(金管五重奏)

【2日目(5月26日)】

◎地域創造事業 ワークショップ体験&レクチャー(東京芸術劇場シンフォニースペース)

[ファシリテーター]公共ホール邦楽活性化事業:吉澤延隆、川村葵山/リージョナルシアター事業:岩崎正裕、有門正太郎/公共ホール現代ダンス活性化事業:セレノグラフィカ(隅地菜歩、阿比留修一)

◎おんかつ支援プレゼンテーション(東京芸術劇場リハーサルルーム)

[ピアノ]新居由佳梨、今野尚美、酒井有彩、中野翔太

[弦楽器]坂口昌優・瀧村依里・早稲田桜子(ヴァイオリン)、奥田なな子(チェロ)

[管楽器]荒川洋(フルート)、田村真寛(サクソフォン)、加藤直明(トロンボーン)

[声楽]糸賀修平・村上敏明(テノール)
[打楽器]大熊理津子・浜まゆみ(マリンバ)

[アンサンブル]Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)、ピアノトリオ・ミュゼ(ピアノトリオ)、Quatuor B(サクソフォン四重奏)、BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)

財団からのお知らせ

●令和4年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)は、オーディションで選ばれたクラシック音楽のアーティストと専門家のコーディネーターを公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で企画した学校や福祉施設等での地域交流プログラムやコンサートを実施することにより、公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援するものです。アーティストは下記「登録アーティスト」より選定していただきます。

募集締切:2021年9月24日(金)必着

◎対象団体

- ①市町村(特別区を含み、政令指定都市を除く)
- ②市町村の公共ホール指定管理者 など

◎対象アーティスト

2020-2022年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)登録アーティスト

◎事業内容

3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
 [地域交流プログラム]学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業 4回(1日につき2回)

[公演]公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート 1回

◎経費負担・支援内容

演奏家派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等)/地域交流プログラムに係る経費(主にピアノ調律費:10万円限度)/コーディネーターの派遣/全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)および個別研修(現地下見)の実施

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

●令和4年度「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)実施団体を対象とした、最大5カ年まで実施可能なフォローアッププログラムです。おんかつで得たノウハウを活用し、引き続き同様の事業を行う市町村等に対して財政的に支援します。登録アーティストのプロフィール等の資料は、対象団体に送付させていただきます。

募集締切:2021年9月24日(金)必着

◎対象団体

おんかつを過去に実施した市町村等。ただし、おんかつまたは地域創造の他の事業を原則として10年以内に実施していること。

◎対象アーティスト

2022年度「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)登録アーティスト

◎支援内容

以下の①および②に係る経費の支援1年目:2/3、2年目以降:1/2を地域創造が助成します。

(※対象経費上限は100万円。助成割合は過去のおんかつ等事業実施状況を勘案し決定。)

①演奏家に係る経費

出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地楽器運搬費を除く)、損害保険料

②地域交流プログラムおよび公演に係る経費

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

2020-2022年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)登録アーティスト

●おんかつ(導入プログラム・支援プログラム)の実施要綱・申込書は当財団ホームページ内からダウンロードできます。
<https://www.jafra.or.jp/project/music/01.html>

●「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)に関する問い合わせ
 芸術環境部 森永
 Tel. 03-5573-4069
onkatsu@jafra.or.jp

●「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)に関する問い合わせ
 芸術環境部 河野
 Tel. 03-5573-4076
onkatsu@jafra.or.jp



©Takumi Jun
 さいとう かずや
 齊藤 一也 [ピアノ]



©Kohán István
 いしかみ まゆこ
 石上 真由子 [ヴァイオリン]



©山岸伸
 うめつ みどり
 梅津 碧 [ソプラノ]



©武藤章
 たけだ みちこ
 竹多 倫子 [ソプラノ]



©FUKAYA Yoshinobu/aura Y2
 にいの まさゆき
 新野 将之 [打楽器]



©Yosuke Sato
 たかはし じつかわ かおる
 高橋ドレミ&實川 風ピアノデュオ
 [ピアノデュオ]

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」実施団体募集

公共ホール邦楽活性化事業は、市町村等と地域創造が共催し、専門家であるコーディネーターのサポートの下、地域交流プログラム(アクティビティ)4回とホールプログラム1回を実施することで、創造性豊かな地域づくりと、地域において芸術活動を担う人材の育成を目的とした事業です。令和4年度からは、オーディションで選ばれた登録演奏家を地域に派遣します。登録演奏家の情報については、8月中に当財団ホームページに掲載予定です。

邦楽事業に取り組んでみたい気持ちがあるものの、ハードルを感じている方がいらっしゃいましたら、ぜひ当事業をご活用ください。



令和2年度 香川県高松市でのホール公演の様子

◎対象団体

- ①市町村(政令指定都市を含む)
- ②市町村の公共ホール指定管理者 など

◎事業内容

3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。

[地域交流プログラム] 学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業
4回(1日につき2回)

[公演] 公共ホールで開催する有料の邦楽コンサートまたは公募型ワークショップ 1回

◎経費負担

- ①演奏家派遣に係る経費
- ②コーディネーター派遣に係る経費
- ③地域交流プログラム負担金(楽器運搬費など)

◎全体研修会の実施について(5月)

当事業を担当する職員に参加いただき、当事業の基本的な考え方や邦楽分野の企画・制作の進め方を学ぶとともに、コーディネーター等を交えた企画相談をすることができます。登録演奏家のプレゼンテーションも行われ、地域に派遣される演奏家を選定します。

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」参加団体一覧(全5団体)
岩手県釜石市
茨城県つくば市
三重県伊賀市
和歌山県上富田町
福岡県豊前市

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」全体研修会報告

5月17日(月)、18日(火)に、令和3年度公共ホール邦楽活性化事業の全体研修会を実施しました。本来は今年度実施団体の担当者と、コーディネーター、演奏家が地域創造に集まり行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、人の移動や接触を避けるため、リモートでの開催となりました。

初日は、コーディネーター陣からの講義が中心となり、アウトリーチや邦楽の基礎知識について学びました。伊藤由貴子コーディネーターからの「公共ホールにとっての邦楽事業とは」の中では、全国的に公共ホールでの邦楽の主催事業数が少ないことが挙げられ、各団体からは、「職員の邦楽に対する知識が浅く、手が出しにくい」「集客面に不安があり実施できていない」などの声が聞かれ、邦楽事業に取り組むハードルの高さが伺えました。

昨年度、公共ホール邦楽活性化モデル事業に取り組んだ埼玉県秩父市の事例紹介では、コロナ対策を講じながらのアクティビティの実施や、担当者の夢だったという、地域の民話と邦楽のコ

ラボレーションを取り入れた公演の発案から実現までの話を、秩父市の担当者とコーディネーターの対談形式で行いました。

2日目は、各実施団体担当者と演奏家からの、地域紹介・自己紹介の意味を含めたプレゼンテーションの時間を設け、まずはお互いの理解を深めました。その後のグループごとのミーティングでは、アクティビティの対象やコンサートの内容、その地域で演奏するのに相応しい楽曲など、さまざまなアイデアが担当者と演奏家から飛び出し、事業実施に向けて、良いスタートアップを切ることができたのではないかと思います。



全体研修会の様子

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」全体研修会プログラム
◎5月17日(月)
●事業概要説明(地域創造)
●アウトリーチ概論(児玉真)
●公共ホールにとっての邦楽事業とは(伊藤由貴子)
●邦楽のいろは(谷垣内和子)
●市町村事例と邦楽公演の制作について(松村剛雄、高井真明[秩父市]、米澤浩、大久保真利子)
◎5月18日(火)
●演奏家によるプレゼンテーション
●実施団体担当者からのプレゼンテーション
●グループ別企画検討

●「公共ホール邦楽活性化事業」の実施要綱・申込書は当財団ホームページ内からダウンロードできます。
<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>

●「公共ホール邦楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 永田・森永
Tel. 03-5573-4064
hougaku@jafra.or.jp

財団からのお知らせ

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ

総務部 三田
Tel. 03-5573-4184

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団ホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/01.html#bosshu>

*対象となる国と地域

南アジア：バングラデシュ、ブータン、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ、モルディブ/東南アジア：ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム/東アジア：中国、日本、韓国、北朝鮮、モンゴル、台湾

また、上記の地域出身でありながらも地域外で活動する作家や、欧米出身でアジアへ移住し、その国の美術に影響を及ぼした作家も含む。

●「アジア美術の魅力」

福岡アジア美術館では、アジア23カ国・地域を対象していますが、各国地域によって気候、風土は大きく異なり、言語、民族、宗教も様々です。近代以前は、それぞれの風土や生活に根差した、あるいは政治や宗教の権力者の下、美術的な表現が発展しました。

18～19世紀に、西洋諸国による植民地化や西洋との通商の中で、西洋近代美術が流入し、そこから現代に至るまで、植民地宗主国の政策や国の体制、戦争、内戦、経済発展など、国・地域によって異なる様々な事情を背景に、それぞれの美術が生まれ、多様な表現が生み出されています。

アジアの美術は、日本美術がそうであるように、西洋の近代美術が入ってきたことで大きく影響を受けましたが、決して西洋美術の亜流などではなく、伝統の繰り返しでもありません。現代に生きるアジアの人々が切実なメッセージをこめて作り出したもので、そうした作品との出会いは、私たちがもつその国に対してのイメージや美術の概念、価値観など、これまでの考えを大きく揺るがす体験になります。

今回の企画が、当館を訪れたことのない多くの方にとって新たな出会いとなることを期待します。

(福岡アジア美術館 学芸員・山木裕子)

●令和4・5年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、参加館を募集します。

募集締切：2021年11月30日(火)

[I] 令和4年度準備・5年度開催「市町村立美術館活性化事業」

この事業は、地域創造が提示する公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。参加館で実行委員会を結成し、準備年度である令和4年度は学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと企画の具体化や調査研究、制作実務を開催館で分担して進めます。そして令和5年度に巡回展を開催します。

地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

今年度募集するのは、令和5年度に開催予定の共同巡回展「福岡アジア美術館所蔵 アジアの美術展」(仮称)への参加館です。

福岡アジア美術館(福岡県福岡市)では、ア

ジア23カ国・地域からの作品を収蔵しています(*)。約4,000点のコレクションは、近代から現代へのアジアの美術の流れを紹介する作品群のほか、パキスタンの映画ポスターやベンガル地方の日用品である刺し子の布「カンタ」等のいわゆる「美術家」以外のさまざまな作り手による大衆芸術や民族芸術、民俗芸術も収蔵しており、質量ともに世界でも類をみないユニークなものです。

今回の展覧会では、福岡アジア美術館の協力により、豊富なコレクションをお借りすることができるため、さまざまな企画展を開催することが可能となります。アジアの特定の国・地域の美術を紹介する展覧会をはじめ、同時代のアーティストによる現代美術の紹介、作品のテーマやジャンルを絞って、例えば抽象画のみを展示するなど、企画の切り口やテーマをいろいろと考えられます。

アジアの美術との出会いは、その土地の風景や人々の暮らしを想像したり、多様な文化を知る機会になります。多文化共生や国際交流にもつながる企画内容ともなっていますので、皆様のご応募をお待ちしています。

[II-①] 令和4年度準備・5年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」

[II-②] 令和4年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」

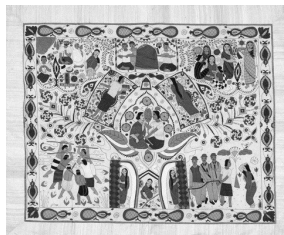
3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、令和4年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、令和5年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2,000万円を上限に助成します(開催年度助成金については、決定額の50%までの前金払い請求が可能)。

「単年度プログラム」は、令和4年度に開催される共同巡回展について、A 作品借用・展示関連経費への助成と、B 図録作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、Aについては500万円、



ジャミニ・ロイ[インド]《子鹿》
(1940年頃/グワッシュ・厚紙)



スレイヤ・ラーマン[バングラデシュ]《民話「ルバトシャジュ」/壁掛け》
(2000年/刺繍・布)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

Bについては300万円を上限に助成します。

【Ⅲ】令和4年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による、「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成する他、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

【Ⅳ】令和4年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会(異なる展覧会も可)に関連し、各館の展示内容やテーマ(作家、素材、技法、様式、モチーフなど)をもとに自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

事業名	対象となる美術館(*1)	申請について	助成措置		
			助成率(*2)	上限額	助成期間
【Ⅰ】市町村立美術館活性化事業	市区町村(政令指定都市を除く)の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:10/10 開催年度:2/3	準備年度:100万円 開催年度:1,200万円	2年間
【Ⅱ-①】公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	3館以上申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる) ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:2/3 開催年度:2/3	準備年度:150万円 開催年度:2,000万円	
【Ⅱ-②】公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)		3館以上申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	2/3	作品借用・展示関連:500万円 カタログ作成関連:300万円	
【Ⅲ】公立美術館共同巡回展企画支援事業		2館以上申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	
【Ⅳ】公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		2館以上申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	

*1 公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。

*2 【Ⅰ】の開催年度および【Ⅱ-①】については、対象経費の合計額から収入を控除した額に対する助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始

地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設の活動のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。ご応募をお待ちしています。

募集締切:2021年7月21日(水)

●表彰対象

- 開館から概ね5年を経過している(廃校施設等の転用施設を含む)
- 地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績を挙げている
- 条例により公の施設として設置および管理されている
- 以下の①～⑤を主な活動分野としている文化施設
①音楽分野、②演劇・ダンス分野、③伝統芸能分野、④美術分野、⑤その他(文化・芸術の新機軸と

なり得る創意工夫をこらした文学、歴史などで①～④の分野と連携しながら継続的に事業を展開していると認められるもの)

●審査の主なポイント

- 地方公共団体等が、文化・芸術による地域振興やふるさとづくりという地域を豊かにするための行政の目的に沿った芸術文化振興ビジョンや公立文化施設の理念、使命を持ち、それを達成するための施設運営がなされているかどうか
- 先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいるか
- 地域住民の文化・芸術活動の育成支援、教育普及活動、住民参加・参画など地域住民との協働(コラボレーション)に意欲的に取り組んでいるかなど

●【Ⅰ】「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当者会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

●【Ⅱ-①】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」申請方法

●準備年度:各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
●開催年度:準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

●【Ⅱ-②】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

●【Ⅲ】「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および【Ⅳ】「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要)。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

●地域創造大賞(総務大臣賞)実施要領・応募方法

「実施要領」「応募書」は当財団ホームページからダウンロードできます。
<https://www.jafra.or.jp/project/award/01.html#boshu>
都道府県・政令指定都市は当財団に直接ご応募ください。市区町村は、当財団ホームページに掲載した都道府県の担当課を経由して提出してください。

●地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ

総務部 三田
Tel. 03-5573-4184
taishou@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

長野県長野市

長野県立美術館完成記念 東京藝術大学 スーパークローン 文化財展



上：長野県立美術館の屋上広場「風テラス」
中：法隆寺釈迦三尊像 復元
下：中谷芙二子《霧の彫刻 #47610—Dynamic Earth Series 1》 Photo by Junya Takagi

●長野県立美術館完成記念 未来につなぐ～新美術館でよみがえる世界の至宝 東京藝術大学スーパークローン文化財展
【主催】長野県、長野県立美術館、信濃毎日新聞社、(公財)信毎文化事業財団
【共催】長野県教育委員会、東京藝術大学、信越放送
【会期】2021年4月10日～6月6日
【会場】長野県立美術館

*長野県立美術館と、隣接する東山魁夷館(1990年開館、2019年改修、設計:谷口吉生)を繋ぐブリッジの下には水辺テラスが設けられ、中谷芙二子の《霧の彫刻》が定期的に現れる。また公園と繋がるオープンギャラリーでは、サトウアヤコが地域住民に聞き取りをした「美術館のある街・記憶・風景 日常記憶地図で見る50年」が展示された。

長野県信濃美術館(1966年開館)の本館が全面的な建て替えを経て、長野県立美術館と名称を変更し、2021年4月にオープンした。現代のニーズに対応した地域美術館を目指す同館を取材した。

長野県立美術館は、1,400年余の歴史を誇る善光寺の東側に隣接する城山公園の中にある。設計は、宮崎浩/プランツアソシエイツ。「ランドスケープ・ミュージアム」をコンセプトに、丘陵地を利用して地上2階(一部3階)・地下1階の建造物を風景に溶け込ませつつ、屋上広場「風テラス」から善光寺本堂の大屋根と背後の山々が一望できるという、美術館建築と伝統的景観の相互の魅力を引き出す設計になっている。

完成記念展の「新美術館でよみがえる世界の至宝 東京藝術大学スーパークローン文化財展」は7年に1度の善光寺御開帳(新型コロナウイルス感染症予防のため1年延期)に合わせて企画されたもので、最新のデジタル技術によって建立された当時の姿を蘇らせた法隆寺金堂釈迦三尊像、気候変動や戦火で傷ついたバーミヤンや敦煌などの文化財を再現した「クローン文化財」が展示されていた。綿密なリサーチを行い、東京藝術大学の教員と学生、職人らが技術と経歴と熱意を合わせて復元に取り組む過程も映像で紹介され、古の文化財が新しい創造力を刺激している様子もうかがえた。保存・修復と公開の役割を担う美術館の本質を問いかける展示となっていた。

新美術館のもう一つの方向性を形にしたと言えるのが、ふるさと納税の仕組みを活用してアーティストの作品制作費を募った「新美術館みんなのアートプロジェクト」だ。最終的に、1,300万円近い寄付が集まり、榊原澄人とユーフラテスのアニメーション作品、金箱純一、中ハシクシゲ、西村陽平、光島貴之による視覚以外の感覚でも鑑賞できる新作が制作された。残念ながら、触覚を使って鑑賞する展覧会「ふれてみて」は感染予防のため公開中止となったが、アニメーション作品は1階交流スペースの

大壁面に投影展示され、子どもたちが夢中で見入っていた。県民が参画でき、多くの人に開かれた美術館の姿を垣間見た気がした。

新美術館の館長に就任したのが、東京国立近代美術館の副館長を務めていた松本透さんだ。松本館長は、「一昔前の美術館は学芸員の研究成果を展覧会にしてカタログを制作すればよかった。今、人々が美術館に望むものは多種多様になっている。私たちは『鑑賞』『学び』『交流』の3つの柱を立て、現代の多様なニーズを実現するようミッションを見直した」と話す。新美術館は、国宝・重要文化財も展示できる「公開承認施設」認定を目指している。また、公開される機会が少なかった4,600点を超えるコレクションのうちから常時展示するスペースを設けて「鑑賞」を充実させる。「学び」では学校連携を強化し、事前学習から当日プログラムまでさまざまな学校のニーズに対応する体制を整えた。

なかでも注力しているのが「交流」で、「同時代の作家たちと人々が気軽に出会い、話せる『交流』を目指す」とし、「その出会いが、古い作品や美術館に興味を持つ入り口となると考えている」と松本館長。

来場者と美術館、アーティストを繋ぐ「アート・コミュニケータ」も公募され、約100人の応募者から選ばれた多様な世代や職業の30人が活動を始めている。企画・交流係長の木内真由美さんは、「長野県内には各所にアーティストや芸家の集団があり、小さな芸術祭やアートプロジェクトを開催している。彼らの交流の場となることも県立の美術館としての役割」と話し、来年1月に「県内アートプロジェクト紹介木曾ペインティングス」を企画している。

長野県立美術館は8月にグランドオープンし、来年2月には「地域の作家にも注目したい」という趣旨の下、長野県出身の日本を代表するコンセプチュアル・アーティスト、松澤宥を回顧する展覧会を準備している。建て替えを機に新たな地域美術館を模索する同館のこれからに期待したい。

(アートジャーナリスト・山下里加)